

三次市斎場 悠久の森

心ゆくまで見送りの出来るユニット形式の斎場



ユニット1「山水」見送り・拾骨ホール



ユニット2「朝霧」見送り・拾骨ホール



ユニット3「風光」見送り・拾骨ホール

【計画概要】

三次斎場は旧1市7町村の老朽化した火葬場を統合し、適正な火葬体制の確立と周辺環境に配慮した火葬場の総合的な整備を目標とし、住民との合意をはかりながら基本計画を策定しました。新しい火葬場の整備に際しては、公募による建設地の決定、プロポーザルによる設計者並びに火葬炉の選定を行い、故人との最期のお別れを心ゆくまで行うことのできるユニットプランを採用しました。

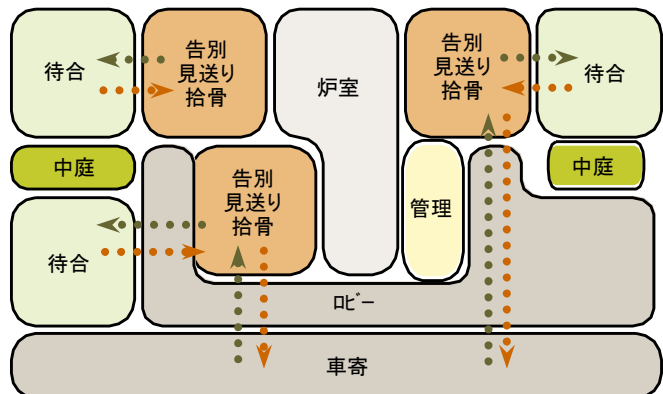
ユニットプランの利点

- ・火葬の一連の行為がユニットででき、移動が少ない。
- ・会葬者ごとの占有でき、プライバシーの確保ができる。
- ・他の会葬者との動線の輻輳がない。
- ・会葬者の人数、一日の火葬数に合わせた運営が可能。
- ・ユニットごとの運営管理が可能となりランニングコストの低減が可能。
- ・運営しながらユニットごとの改修が可能。

従来の火葬場は葬送行為が流れ作業になりがちで、運営及び作業の効率性が重要視されている感が否めませんでした。火葬場は運営や建築のデザインを含め、遺族の心情に配慮した空間づくりが必要であると考え、空間構成や雰囲気創りも重要ですが、遺族の心情に配慮した優しさ（安全性）と暖かさ、建物に不可欠な機能性を持ち合わせた火葬場となるよう設計をしました。

ユニットそれぞれに「三次の原風景」「霧海」「風」のテーマで空間をデザインし、アプローチは三次を流れる3本の川が交わる様子を表現して石舟のモニュメントを浮かべています。

建物内部は、木材や石、漆喰などの自然素材で内装を構成し、暖かく、清楚な空間にしています。華やかな装飾は取り入れず、素材同士の調和や納め方、照明計画で安らかな雰囲気を演出しました。



ユニットプランの模式図



アプローチ



ユニット1 待合



見送り・拾骨ホールから庭園



ユニット1 和室



■建築概要

施設名称 三次市斎場 悠久の森
 設置者 三次市
 所在地 広島県三次市大田幸町字金神985番地
 敷地面積 14,248.04㎡
 建築面積 2,444.47㎡
 延床面積 2,478.66㎡
 主要施設 火葬炉5基(再燃焼炉付台車式、大型火葬炉)
 ユニット1-見送り・拾骨ホール、待合(40席)
 ユニット2-見送り・拾骨ホール、待合(60席)
 ユニット3-見送り・拾骨ホール、待合(80席)
 霊安室、キッズルーム、会議室
 駐車台数 普通車57台、大型バス5台
 車椅子利用者用2台
 構造 鉄筋コンクリート造
 一部鉄骨造
 階数 2階建て
 最高高さ 12.70m 最高軒高 11.20m
 階高 1階5.0m、2階6.0m
 地域地区 都市計画区域外

■設備概要

受電方式 高圧6.6kV 1回線受電
 変圧器容量 700kVA
 予備電源 ディーゼル発電機(360kVA)
 空調方式 空冷ヒートポンプパッケージ方式
 給水方式 加圧給水方式
 排水方式 合併処理浄化槽設備
 給湯方式 局所給湯方式(電気)
 火葬炉熱源 灯油

■設計・監理

大旗連合建築設計株式会社

■施工

建築主体 株式会社砂原組・株式会社加藤組共同企業体
 電気設備 株式会社中電工
 給排水設備 株式会社アマノ
 空調設備 備北設備工業株式会社
 造成・外構 株式会社加藤組
 火葬炉設備 宮本工業所
 設計期間 平成22年6月～平成23年3月
 工事期間 平成23年3月～平成24年3月
 供用開始 平成24年4月

総事業費 約16億6千8百万円

■主な外部仕上

屋根：石州瓦一文字葺 外断熱接着工法
 外壁：炉器質割肌100角タイル
 アプローチ床：花崗岩貼
 建具：アルミサッシ

■主な内部仕上

【エントランス】
 床／花崗岩(ジェットバーナー)
 壁／大理石貼、木調化粧板
 天井／木調化粧板、岩綿吸音板塗装仕上
 【ユニット1 見送り・拾骨ホール】
 床／花崗岩(ジェットバーナー)
 壁／大理石貼、木製ルーバー
 天井／木調化粧板、岩綿吸音板塗装仕上
 【ユニット2 見送り・拾骨ホール】
 床／花崗岩(ジェットバーナー)
 壁／大理石貼、アルミダイキャスト
 天井／木調化粧板、岩綿吸音板塗装仕上
 【ユニット1 見送り・拾骨ホール】
 床／花崗岩(ジェットバーナー)
 壁／大理石貼、アルミダイキャスト
 天井／木調化粧板、岩綿吸音板塗装仕上